

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4638180号
(P4638180)

(45) 発行日 平成23年2月23日(2011.2.23)

(24) 登録日 平成22年12月3日(2010.12.3)

(51) Int.Cl. F 1
E O 4 H 1/04 (2006.01) E O 4 H 1/04 Z

請求項の数 5 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2004-177227 (P2004-177227)	(73) 特許権者	000002174
(22) 出願日	平成16年6月15日(2004.6.15)		積水化学工業株式会社
(65) 公開番号	特開2006-2363 (P2006-2363A)		大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号
(43) 公開日	平成18年1月5日(2006.1.5)	(72) 発明者	今峰 博司
審査請求日	平成19年2月21日(2007.2.21)		茨城県つくば市和台32 積水化学工業株式会社内
		審査官	田中 洋行
		(56) 参考文献	特開2003-013619(JP, A)
			)
			特開2002-047816(JP, A)
			)
			特開平08-151807(JP, A)
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 建物

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

道路に接した敷地内に複数の住戸が複数階に配置された建物本体と、前記建物本体の上階外壁面に沿って設置された上階外廊下と、前記上階外廊下を支持する柱と、前記上階外廊下の長手方向に並行して設置され、前記上階外廊下と地面とを連絡する外階段とを有し、

前記上階外廊下を支持する柱のうち、前記外階段の階段口と前記道路との間に位置し前記階段口と所定の間隔をもって配置された柱は、前記上階外廊下の前記建物本体と反対側の縁の真下から、一階外壁面と隣地境界との間に形成されて道路に連通する敷地内通路の幅方向で位置をずらして立設されてなることを特徴とする建物。

10

【請求項2】

前記外階段の階段口と前記道路との間に位置する柱は、前記外階段の前記建物本体と反対側の縁よりも前記建物本体と反対側に位置して立設されてなることを特徴とする請求項1記載の建物。

【請求項3】

前記外階段の階段口と前記道路との間に位置する柱は、前記上階外廊下の前記建物本体と反対側の縁と前記外階段の前記建物本体と反対側の縁との間に位置して立設されてなることを特徴とする請求項1記載の建物。

【請求項4】

前記外階段の階段口と前記道路との間に位置する柱は、前記建物本体の一階外壁面と前

20

記上階外廊下の前記建物本体と反対側の縁との間に位置して立設されてなることを特徴とする請求項 1 記載の建物。

【請求項 5】

前記外階段の階段口は、前記外階段の階段口と前記道路との間に位置する柱と所定の間隔をもって、当該柱よりも前記道路の反対側に配置されてなることを特徴とする請求項 3 または請求項 4 記載の建物。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、共同住宅等の建物に関するものである。

10

【背景技術】

【0002】

従来より、建物本体の外壁面に沿って外廊下が設置され、外廊下の長手方向に並行して外廊下と地面とを連絡する外階段が設置された共同住宅等の建物が知られている。

【0003】

この種の建物の従来例は、図 7 の斜視図に示すように、複数の住戸が複数階に配置された建物本体 1 の一階外壁面 2 に沿って一階外廊下 3 が設置され、上階外壁面 4 に沿って上階外廊下 5 が複数本の柱 6 で支持されて設置され、上階外廊下 5 の長手方向に並行して上階外廊下 5 と地面を連絡する外階段 7 が設置されて構成されている（例えば、特許文献 1 参照）。

20

【特許文献 1】特開平 11-152913 号公報（図 5（b）、0023 段落）

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

このような建物を敷地内に建築する場合、一階外廊下 3 および外階段 7 の階段口 8 から道路 10 に至るまでの敷地内通路 9 の通路幅は、通行および災害時の避難のために上階外廊下 5 を支持する柱 6 から寸法幅 W1 を所定値以上に確保することが各自治体の条例等で定められている（例えば、1.5m 以上）。

【0005】

このように、上階外廊下 5 を支持する柱 6 を基準として敷地内通路 9 の寸法幅 W1 が設定されると、一階外廊下 3 から隣地境界 11 までの距離を大きくとる必要が生じ、敷地を有効に活用できないという問題がある。

30

【0006】

なお、外階段 7 の階段口 8 を道路 10 に直接に面するようにすれば、敷地の有効利用が可能であるが、次のような問題があり、実施に困難を伴う。

【0007】

すなわち、外階段 7 の階段口 8 を道路 10 に直接に面するように設置する一つの例としては、図 8 の概略平面図で示すように、階段口 8 を建物本体 1 よりも道路 10 側に突き出して設置するものである。

【0008】

40

この場合、道路 10 と建物本体 1 との間に距離 L をとる必要があり、敷地の有効活用上不利となり、また、外階段 7 が突き出すことにより、建物本体 1 との一体感が損なわれ、外観が悪くなる。

【0009】

他の例としては、図 9 の平面図で示すように、階段口 8 を建物本体 1 と同位置に設置するものである。

【0010】

この場合、上階外廊下 5 は、一般に建物本体 1 の柱 6 のスパン S によっては柱が踊り場 8b の出入開口一致してしまうことあり、これによって、廊下本体や廊下手摺のシステム的な設計が煩雑になったり、また、プランが限定されたりして、設計の自由度が損なわれ

50

るようになる。

【0011】

そこで、本発明は、敷地を有効に活用することができ、しかも外観の悪さやシステム的な設計の煩雑さを解消することができる建物を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0012】

前記目的を達成するために、請求項1の発明は、道路に接した敷地内に複数の住戸が複数階に配置された建物本体と、前記建物本体の上階外壁面に沿って設置された上階外廊下と、前記上階外廊下を支持する柱と、前記上階外廊下の長手方向に並行して設置され、前記上階外廊下と地面とを連絡する外階段とを有し、前記上階外廊下を支持する柱のうち、前記外階段の階段口と前記道路との間に位置し前記階段口と所定の間隔をもって配置された柱は、前記上階外廊下の前記建物本体と反対側の縁の真下から、一階外壁面と隣地境界との間に形成されて道路に連通する敷地内通路の幅方向で位置をずらして立設されてなる建物の特徴としている。

10

【0013】

また、請求項2に記載のものは、前記外階段の階段口と前記道路との間に位置する柱は、前記外階段の前記建物本体と反対側の縁よりも前記建物本体と反対側に位置して立設されてなる請求項1記載の建物の特徴としている。

20

【0014】

さらに、請求項3に記載のものは、前記外階段の階段口と前記道路との間に位置する柱は、前記上階外廊下の前記建物本体と反対側の縁と前記外階段の前記建物本体と反対側の縁との間に位置して立設されてなる請求項1記載の建物の特徴としている。

【0015】

さらに、請求項4に記載のものは、前記外階段の階段口と前記道路との間に位置する柱は、前記建物本体の一階外壁面と前記上階外廊下の前記建物本体と反対側の縁との間に位置して立設されてなる請求項1記載の建物の特徴としている。

【0016】

さらに、請求項5に記載のものは、前記外階段の階段口は、前記外階段の階段口と前記道路との間に位置する柱と所定の間隔をもって、当該柱よりも前記道路の反対側に配置されてなる請求項3または請求項4に記載の建物の特徴としている。

30

【発明の効果】

【0017】

このように構成された請求項1のものは、一階外壁面と隣地境界との間で敷地内通路を形成し、上階外廊下を支持する柱のうち、外階段の階段口と道路との間に位置する柱は、前記外階段の階段口と前記道路との間に位置する柱は、上階外廊下の建物本体と反対側の縁の真下から、敷地内通路の幅方向で位置をずらして立設される。

【0018】

このため、一階外廊下の建物本体と反対側の縁から所定の寸法幅をとる従来例に比して、敷地を有効に活用することができる。

40

【0019】

また、請求項2に記載されたものは、外階段の階段口と道路との間に位置する柱は、外階段の建物本体と反対側の縁よりも建物本体と反対側に位置して立設される。

【0020】

このため、一階外廊下および外階段から道路への通行の妨げになることは殆どなくなる。

【0021】

さらに、請求項3に記載されたものは、外階段の階段口と道路との間に位置する柱は、上階外廊下の建物本体と反対側の縁と外階段の建物本体と反対側の縁との間に位置して立

50

設される。

【0022】

このため、外階段の建物本体と反対側の縁を隣地境界の極く近くまで位置させることが可能となり、より有効に敷地を活用することができる。

【0023】

さらに、請求項4に記載されたものは、外階段の階段口と道路との間に位置する柱は、一階外壁面と上階外廊下の建物本体と反対側の縁との間に位置して立設される。

【0024】

このため、上階外廊下の建物本体と反対側の縁から所定の寸法幅をとる従来例に比して、敷地を有効に活用することができる。

10

【0025】

さらに、請求項5に記載されたものは、外階段の階段口は、外階段の階段口と道路との間に位置する柱と所定の間隔をもって、当該柱よりも道路の反対側に配置される。

【0026】

このため、柱が一階外壁面と外階段の建物本体と反対側の縁との間に位置していても、階段口と柱との間での寸法幅が確保され、通行や避難の妨げになることを防止できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0027】

以下、本発明の最良の実施の形態について図面を参照して説明する。

【0028】

20

なお、前記従来例と同一部分については同一符号を付して説明する。

(実施の形態1)

図1は、実施の形態1の斜視図、図2は、実施の形態1の平面図を示している。

【0029】

建物本体1は、従来例と同様に複数の住戸が複数階に配置されたものであり、建物本体1の一階外壁面2に沿って一階外廊下3が設置され、上階外壁面4に沿って上階外廊下5が複数本の柱6で支持されて設置されている。

【0030】

また、上階外廊下5の長手方向に並行して上階外廊下5と地面とを連絡する外階段7が設置されている。

30

【0031】

一階外壁面2と隣地境界11の間には敷地内通路9が形成され、敷地内通路9は、道路10に連通している。

【0032】

一階外廊下3から敷地内通路9を経て道路10に連通するスペース12に外階段7の階段口8が配置され、外階段7の階段口8および一階外廊下3は共に敷地内通路9に連通している。

【0033】

ここで、上階外廊下5を支持する柱6のうち、外階段7の階段口8と道路10との間に位置する柱6aは、上階外廊下5の建物本体1と反対側の縁15の真下から敷地内通路9の幅方向に建物本体1と離間する方向に位置をずらして立設されている。

40

【0034】

すなわち、柱6aは、外階段7の建物本体1と反対側の縁14よりも建物本体1と反対側（隣地境界11側）に位置して、一階外壁面2との間に避難時に必要な幅寸法W2を確保して立設されている。

【0035】

これによって、一階外廊下3および外階段7からは、一階外壁面2と柱6aとの間を経て通路10に臨む通行および避難のための通路が確保される。

【0036】

なお、柱6aは、上階外廊下5の建物本体1と反対側の縁15から離れた位置に立設さ

50

れるので、梁 1 3 a を介して上階外廊下 5 を支持している。

【0037】

このように、本実施の形態によれば、敷地内通路 9 は、一階外壁面 2 を基準として外階段 7 側に形成され、しかも、上階外廊下 5 を支持する柱のうち、外階段 7 の階段口 8 と道路 1 0 との間に位置する柱 6 a は、外階段 7 の建物本体 1 と反対側の縁 1 4 よりも建物本体 1 と反対側（隣地境界 1 1 側）に位置して、一階外壁面 2 との間に避難時に必要な幅寸法 W 2 を確保して立設されるので、上階外廊下 5 の建物本体 1 と反対側の縁 1 5 から所定の寸法幅をとる従来例に比して、上階外廊下 5 の通路幅分だけ敷地を有効に活用することができる。

【0038】

10

また、外階段 7 の階段口 8 と道路 1 0 との間に位置する柱 6 a は、外階段 7 の建物本体 1 と反対側の縁 1 4 よりも外側（隣地境界 1 1 側）に立設されるので、一階外廊下 3 および外階段 7 から道路 1 0 への通行や避難の妨げになることは殆どない。

（実施の形態 2）

図 3 は、実施の形態 2 の斜視図、図 4 は、実施の形態 2 の平面図を示している。

【0039】

前記実施の形態 1 と同一部分については同一符号を付して説明する。

【0040】

本実施の形態が前述した実施の形態 1 と異なる点を中心に説明すると、上階外廊下 5 を支持する柱 6 のうち、外階段 7 の階段口 8 と道路 1 0 との間に位置する柱 6 b は、上階外廊下 5 の建物本体 1 と反対側の縁 1 5 の真下から敷地内通路 9 の幅方向に建物本体 1 と離間する方向に位置をずらして立設されている。

20

【0041】

すなわち、柱 6 b は、上階外廊下 5 の建物本体 1 と反対側の縁 1 5 と外階段 7 の建物本体 1 と反対側の縁 1 4 との間に位置して、一階外壁面 2 と柱 6 b との間に避難時に必要な幅寸法 W 3 を確保して立設されている。

【0042】

これによって、一階外廊下 3 および外階段 7 からは、一階外壁面 2 と柱 6 b との間を経て通路 1 0 に臨む通行および避難のための通路が確保される。

【0043】

30

なお、柱 6 b は、上階外廊下 5 の建物本体 1 と反対側の縁 1 5 から離れた位置に立設されるので、梁 1 3 b を介して上階外廊下 5 を支持している。

【0044】

ここで、外階段 7 の階段口 8 を、柱 6 b と所定の間隔 L 1 をもって、柱 6 b よりも道路 1 0 の反対側に配置すると、外階段 7 から一階外壁面 2 と柱 6 b との間を抜ける通路幅を確保することができる。

【0045】

このように、本実施の形態によれば、柱 6 b は、上階外廊下 5 の建物本体 1 と反対側の縁 1 5 と外階段 7 の建物本体 1 と反対側の縁 1 4 との間に位置して、一階外壁面 2 との間に避難時に必要な幅寸法 W 3 を確保して立設されるので、外階段 7 の建物本体 1 と反対側の縁 1 4 を隣地境界 1 1 の極く近くまで位置させることが可能となり、より有効に敷地を活用することができる。

40

【0046】

他の構成および作用効果については、前記実施の形態 1 と同様であるので、説明を省略する。

（実施の形態 3）

図 5 は、実施の形態 3 の斜視図、図 6 は、実施の形態 3 の平面図を示している。

【0047】

前記実施の形態 1 と同一部分については同一符号を付して説明する。

【0048】

50

本実施の形態が前述した実施の形態 1 と異なる点を中心に説明すると、外階段 7 の階段口 8 と道路 10 との間に位置する柱 6 c は、上階外廊下 5 の建物本体 1 と反対側の縁 15 の真下から敷地内通路 9 の幅方向で建物本体 1 に近接する方向に位置をずらして立設されている。

【0049】

すなわち、柱 6 c は、建物本体 1 の一階外壁面 2 と上階外廊下 5 の建物本体 1 と反対側の縁 15 とのほぼ中間部に位置して、隣地境界 11 との間に避難時に必要な幅寸法 W 4 を確保して立設されており、この柱 6 c は梁 13 c を介して上階外廊下 5 を支持している。

【0050】

ここで、外階段 7 の階段口 8 を、柱 6 c と所定の間隔 L 2 をもって、柱 6 c よりも道路 10 の反対側に配置すると、一階外廊下 3 から柱 6 c の隣地境界 11 側を抜ける通路幅を確保することができる。

【0051】

このように、本実施の形態によれば、柱 6 c は、上階外廊下 5 の建物本体 1 と反対側の縁 15 よりも建物本体 1 側に位置して、隣地境界 11 との間に避難時に必要な幅寸法 W 4 を確保して立設されており、上階外廊下 5 の建物本体 1 と反対側の縁 15 から所定の寸法幅をとる従来例に比して、敷地を有効に活用することができる。

【0052】

他の構成および作用効果については、前記実施の形態 1 と同様であるので、説明を省略する。

【0053】

以上、図面を参照して、本発明の最良の実施の形態を詳述してきたが、本発明によれば、敷地を有効に活用することができ、しかも外観の悪さやシステムの設計の煩雑さを解消することができる建物を提供することが可能になる。

【0054】

また、上述した具体的な構成は、この実施の形態に限らず、本発明の要旨を逸脱しない程度の設計の変更は、本発明に含まれる。

【0055】

例えば、前記実施の形態では、二階建ての建物について説明したが、本発明は、三階建て以上の建物であってもよい。

【図面の簡単な説明】

【0056】

【図 1】本発明の最良の実施の形態のうち実施の形態 1 を説明する斜視図である。

【図 2】本発明の最良の実施の形態のうち実施の形態 1 を説明する平面図である。

【図 3】本発明の最良の実施の形態のうち実施の形態 2 を説明する斜視図である。

【図 4】本発明の最良の実施の形態のうち実施の形態 2 を説明する平面図である。

【図 5】本発明の最良の実施の形態のうち実施の形態 3 を説明する斜視図である。

【図 6】本発明の最良の実施の形態のうち実施の形態 3 を説明する平面図である。

【図 7】従来例を説明する斜視図である。

【図 8】従来例を説明する平面図である。

【図 9】従来例を説明する平面図である。

【符号の説明】

【0057】

1 建物本体

2 一階外壁面

3 一階外廊下

4 上階外壁面

5 上階外廊下

6 柱

6 a、6 b、6 c 外階段の階段口と道路との間に位置する柱

10

20

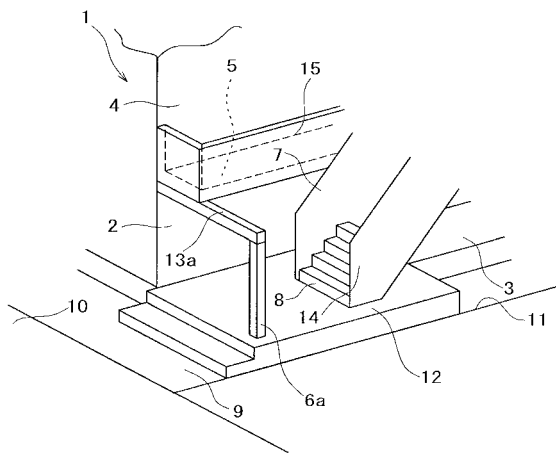
30

40

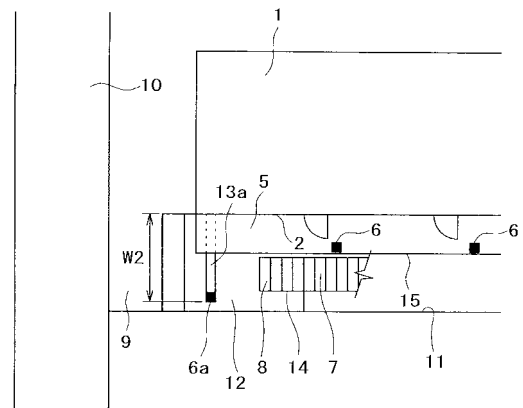
50

- 7 外階段
- 8 階段口
- 9 敷地内通路
- 10 道路
- 11 隣地境界
- 14 外階段の建物本体と反対側の縁
- 15 上階外廊下の建物本体と反対側の縁

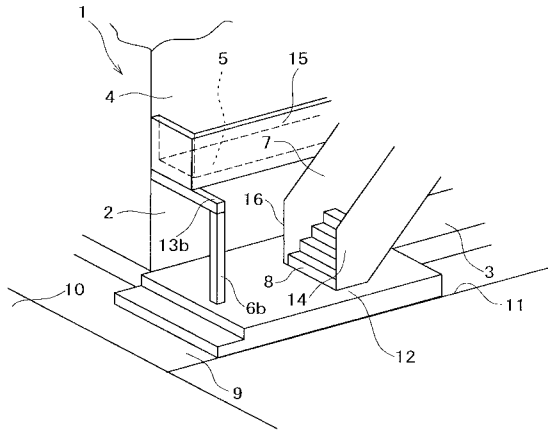
【図 1】



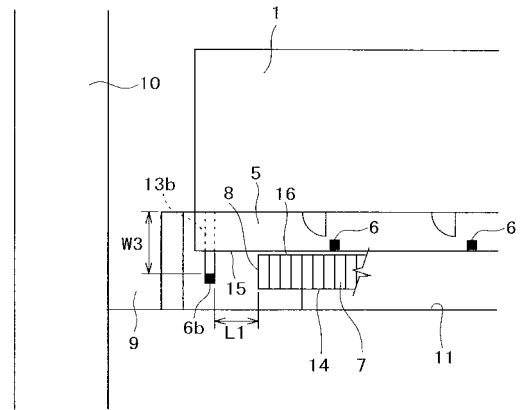
【図 2】



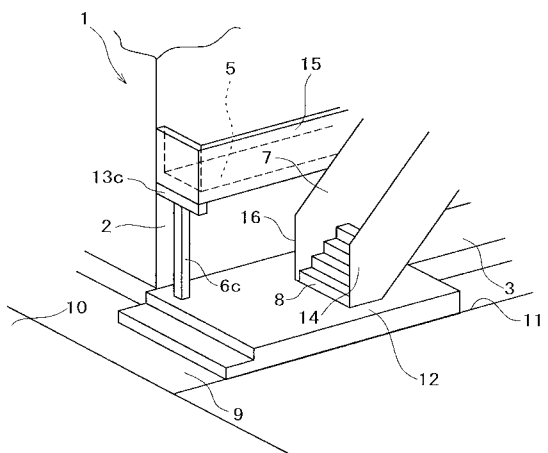
【図 3】



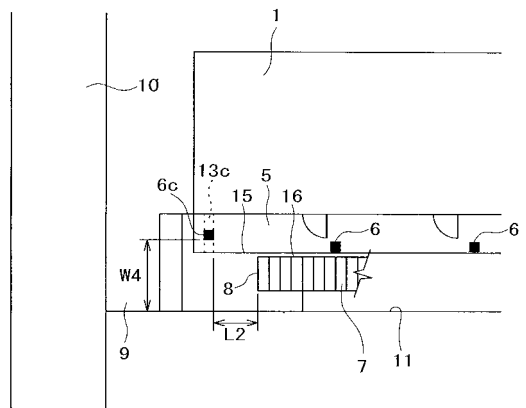
【図 4】



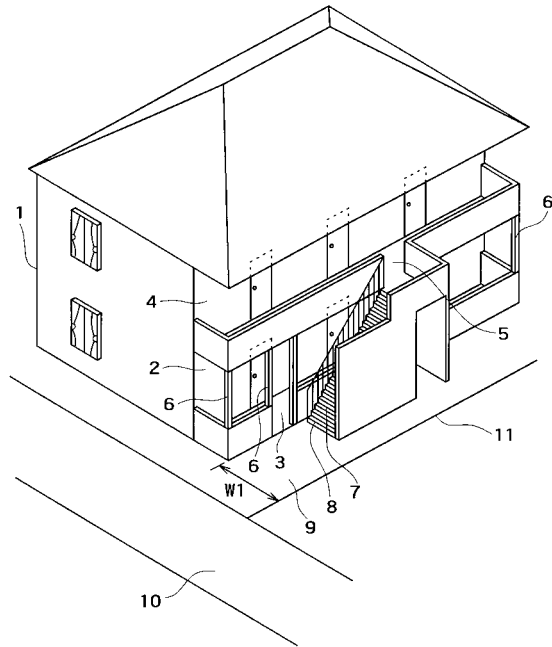
【図 5】



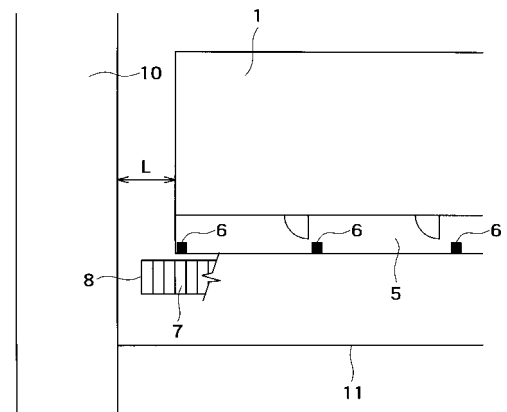
【図 6】



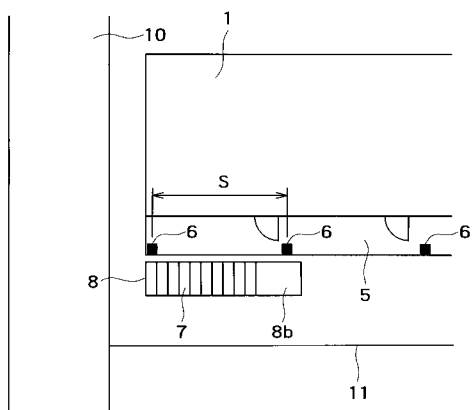
【図 7】



【図 8】



【図 9】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

E 0 4 H 1 / 0 2 - 1 / 0 4